

主な火山災害年表

古文書などの記録により比較的記録が残っている1600年以降に発生した主な火山災害、及び、1950年以降に発生した複数名死亡の火山ガスによる災害も追記した。

火山名	活動期間	要因	詳細	文献
大雪山	1958年7月	火山ガス	7月26日：御鉢平有毒温泉の噴気孔付近で火山ガスにより、登山者2名死亡。	1)
	1961年6月	火山ガス	6月18日：御鉢平火口底で火山ガスにより、登山者2名死亡。	1)
十勝岳	1926年2月～1928年12月	泥流・噴火	1926年5月24日：融雪型火山泥流発生、上富良野村・美瑛村が埋没。死者・行方不明者144名、負傷者209名。建物372棟、家畜68頭・602羽、山林・耕地・道路・橋梁・鉄道等に甚大な被害。 1926年9月8日：噴火により火口付近で2名行方不明。	2)
	1962年3月～7月	噴石・降灰	6月29日：噴石により大正火口縁の硫黄鉱山事務所を破壊。死者5名、負傷者11名。 6月29日～7月：降灰により道東で農地等に被害。	2)
有珠山	1663年8月	火砕サージ・降灰	8月16日：火砕サージ・降灰により家屋が焼失または埋没し、死者5名。	3) 4)
	1769年1月	火砕流	1月23日：明和火砕流によって、南東山麓にあった民家焼失。	3) 4) 5)
	1822年3月	火砕流	3月23日：火砕流(文政熱雲)によって、旧アブタ集落(現在の入江付近)全滅、死傷者103名、馬1437頭被害。	3) 4) 5)
	1910年7月～8月	地震・降灰・泥流	1910年7月24日：地震により虻田村で半壊破損15棟。 1910年7月25日：降灰により家屋・山林・耕地に被害。 1910年7月26日：泥流により死者1名。	3) 4) 5)
	1943年12月～1945年9月	地殻変動・火砕サージ・噴石・降灰	1944年4～5月：著しい地殻変動により壮瞥町フカバ集落放棄。 1944年7月2・3日：噴石により農作物に被害。 1944年7月11日：火砕サージにより負傷者1名、保安林・家屋損壊。農作物に被害。	4) 5)
	1977年8月～1982年3月	降灰・地殻変動・泥流	1944年8月26日、降灰による窒息で死者1名、家屋焼失。 降灰による家屋や農林被害。地殻変動により道路や建物、上下水道等に被害。 1978年10月：泥流により死者2名、行方不明1名、軽傷2名、家屋被害196棟、非家屋被害9棟、農林業、土木、水道施設等に被害。	4) 6)
2000年3月～2001年9月	噴石・地殻変動・泥流	道路、鉄道などに被害。住民避難。	7)	
北海道駒ヶ岳	1640年7月～9月	津波	7月31日：山頂部が一部崩壊し、内浦湾に津波発生。700名余が溺死。船舶100隻余に被害。	8)
	1856年9月～10月	噴石・火砕流	9月25日：噴石により死者2名、家屋17棟焼失、船舶12隻に被害。火砕流により死者19～27名。	8)
	1929年6月	噴石・火砕流・火山ガス・泥流・降灰	6月17日：噴石により死者2名(倒壊家屋下敷き含む)、負傷者4名、牛馬被害136頭、家屋の焼失・全半壊・埋没等1915棟、降灰・火砕流・火山ガス・泥流による山林の被害、降灰による耕地・牧場・漁場の被害大。	8)
恵山	1764年7月	噴気	死者多数。	9)
	1846年11月	泥流	11月18日：噴火で発生した泥流により、北東側の榎法華集落で死傷者多数、家屋被害。	9)
渡島大島	1741年8月	岩屑なだれ・津波	8月29日：岩屑なだれにより大津波が発生し、死者1467名(北海道・津軽)、家屋791棟流出・破壊。船舶1521隻破壊。	10)
八甲田山	1997年7月	火山ガス	山麓の田代平で、窪地内に滞留していた炭酸ガスにより、レンジャー訓練中の陸上自衛隊員3名が死亡。	11)
鳥海山	1659年4月～1663年	噴火	1659年4月噴火。白雪川中下流域、赤石川上流域で稲作に被害。	12)
	1740年6月～1747年	噴火	1740年6月：荒神ヶ岳の南東側山腹火口から噴火。白雪川に硫化物が流れ込み農作物に被害。	12)
	1801年8月	噴火・噴石	噴石により登山者8名死亡。	12) 13) 14)
	1834年7月	噴火	白雪川に硫化物が流れ込み稲に被害。	12)
蔵王山	1867年10月	噴火	御釜沸騰。洪水により死者3名。	13) 15)
	1895年2月	噴火	御釜沸騰。湖水氾濫。洪水。	15)
吾妻山	1893年6月	噴火・噴石	火口付近調査中の2名死亡。	16)
安達太良山	1900年7月	噴火	火口の硫黄採掘所全壊。死者72名、負傷者10名。山林耕地被害。	14) 16)
	1997年9月	火山ガス	火山ガス(硫化水素)により、沼ノ平で登山者4名死亡。	11) 17)
磐梯山	1888年7月	岩屑なだれ・疾風	大規模な岩屑なだれが発生し、山麓の5村11集落を埋没。死者461名(477名とも)。家屋山林耕地の被害大。	18)
草津白根山	1897年7月～8月	噴火	7月8日：湯釜火口内で爆発、熱泥・湯噴出。付近の硫黄採掘所全壊。 8月3日：爆発、負傷者1名。	14)
	1902年7月～9月	噴火	7月15日：浴場・事務所の建物全壊。	14)
	1932年	噴火	10月1日：火口付近で死者2名、負傷者7名、山上施設破損甚大。	19)
	1942年	噴火	2月2日：火口付近の施設破損。	19)
	1971年12月	火山ガス	12月27日：温泉造成のボーリング孔のガス(硫化水素)もれによる中毒死、死者6名。	19) 20)
	1976年8月	火山ガス	8月3日：本白根山白根沢(弁天沢)で滞留火山ガスにより登山者3名死亡。	21)
浅間山	1648年3月	積雪融解	積雪融解により追分驛流失。	14) 22)
	1721年6月	噴石	6月22日：登山者15名死亡、重傷者1名。	23)
	1783年5月～8月	火砕流、岩屑なだれ、溶岩流	8月5日：天明大噴火。吾妻火砕流、鎌原岩屑なだれ、北麓に流下、下流では泥流に変化して吾妻川を塞ぎ、決壊し利根川流域の村落を流失した。鎌原火砕流発生直後に鬼押出溶岩が北側斜面を流下。死者1151名、流失家屋1061棟、焼失家屋51棟、倒壊家屋130余棟。	14)
			11月7日：分去(わかさり)茶屋倒壊。	
	1803年11月	噴石	1803年頃～1970年頃まで爆発によりガラス戸、障子破損被害が継続したが、このうち人的被害のあったものは以下の通りである。	14)
	1900年頃～1970年頃	噴石・空振	1911年5月8日：噴石により死者1名、負傷者2名。空振による家屋の被害。	14)
			1911年8月15日：死者2名、重軽傷者数十名。	14)
			1913年5月29日：登山者1名死亡、負傷者1名。	14) 23)
			1920年12月14日：峰の茶屋焼失。	22)
			1928年2月23日：噴石により分去(わかさり)茶屋焼失、屋根の破損多数。群馬県倉沢村川浦で風に流されて降る噴石により児童負傷。山麓で空振のため戸障子破損。	19) 22) 24)
			1930年8月20日：火口付近で死者6名。	22)
	噴石	1931年8月20日：登山者遭難3名(重症1名、負傷2名)。	22)	
噴火	1936年7月29日：登山者1名死亡。	24)		
噴石	1936年10月17日：登山者1名死亡。	22)		
噴石・降灰	1938年7月16日：登山者若干名死亡。農作物被害。	25)		

		噴石	1941年7月13日：死者1名、負傷者2名。	26)
		噴石	1947年8月14日：湯の平で山火事、登山者9名死亡。	19) 27)
		噴火	1949年8月15日：噴火時に転倒して登山者4名負傷。	22) 24)
		噴石・空振	1950年9月23日：登山者1名死亡、負傷者6名。山麓でガラス破損。	19) 28) 29)
		噴石	1961年8月18日：行方不明1名。耕地、牧草に被害。	19) 30)
	2004年8月～11月	空振・降灰	農作物、ガラス等に被害。	31)
新潟焼山	1974年7月	噴石	7月28日：噴石のため山頂付近でキャンプ中の登山者3名死亡。	32)
弥陀ヶ原	1967年11月	火山ガス	11月4日：火山ガス(硫化水素)により、キャンプ中の2名死亡。	1)
焼岳	1915年2月～7月	泥流	6月6日：泥流による梓川のせき止め、決壊、洪水発生。	14)
	1962年6月～12月	噴石	6月17日：火口付近の山小屋で負傷者2名。	33)
	1995年2月	水蒸気爆発	2月11日：焼岳南東山麓の安曇村の中ノ湯の工事現場で熱水性の水蒸気爆発、作業員4名死亡。	34) 35)
富士山	1707年12月～1708年1月	噴石・降灰・洪水	12月16日：宝永噴火。山麓で家屋・耕地被害。餓死者多数。噴火後洪水等の土砂災害が継続。	14) 36)
箱根山	1933年5月	噴気異常	5月10日：大涌谷の噴気孔で大音響とともに噴出、死者1名。	19)
伊豆大島	1684年～1690年	地震・降灰	3月末～：地震多発し、家屋倒壊。	37)
	1957年10月	噴火	10月13日：火口付近の観光客のうち1名死亡、重軽傷者53名。	14) 38)
三宅島	1643年3月～4月	噴石・火山灰	3月31日：噴石により阿古村(現在位置とは異なる)は全村焼失。旧坪田村は火山灰、噴石により、人家、畑が埋没。	14) 39)
	1712年2月	泥水	2月4日：阿古村で泥水の噴出で多くの家屋が埋没し、牛馬被害。	14) 39)
	1874年7月	溶岩	7月3日：家屋45軒が埋没。死者1名。	14)
	1940年5月～8月	噴火	7月12日～：噴火により、死者11名、負傷者20名、牛の被害35頭、全壊・焼失家屋24棟、その他被害大。	37)
	1962年5月～8月	噴火	8月24日：焼失家屋5棟のほか道路、山林、耕地など被害。	40)
	1983年10月	溶岩・降灰	10月3日：溶岩流出、多量の岩塊および火山灰で、住宅の埋没・焼失約400棟。山林耕地等に被害。	41)
青ヶ島	1783年3月～4月	噴石	4月10日：家屋61戸焼失、死者7名。	14)
	1785年4月～5月	噴火	4月18日：当時327人の居住者のうち130～140名が死亡と推定され、残りは八丈島に避難。	14)
ペヨネース列岩(明神礁)	1952年～1953年	火砕サージ	9月24日：調査中の海上保安庁水路部観測船第5海洋丸遭難31名殉職。	14) 42)
伊豆鳥島	1902年8月	噴火	8月上旬(7日～9日のいつか)：全島民125名死亡。	14) 43)
阿蘇山	1772年～1780年	噴火	降灰のため農作物の被害。	44)
	1815年	噴火	降灰多量、噴石、田畑荒廃。	14)
	1816年7月	噴火	噴石により死者1名。	44)
	1828年6月	噴火	降灰砂多量、田畑被害。	14)
	1854年2月	噴火	2月26日：参拝者3名死亡。	45)
	1872年12月	噴火	12月30日：硫黄採掘者が数名死亡。	14)
	1932年12月	噴火	12月18日：火口付近で負傷者13名。	46)
	1940年4月	噴火	4月29日：負傷者1名。	47)
	1953年4月	噴火	4月27日：観光客6名死亡、負傷者90余名。	48)
	1958年6月	噴火	6月24日：死者12名、負傷者28名、建築物に被害。	49)
	1965年10月	噴火	10月31日：噴石により建築物に被害。	50)
	1979年9月	噴火	9月6日：爆発により、楢尾岳周辺で死者3名、重傷者2名、軽傷者9名、火口東駅舎被害。	51)
	1997年11月	火山ガス	11月23日：火口縁で火山ガス(二酸化硫黄)により、観光客2名死亡。	11) 52) 53)
雲仙岳	1664年	土石流	月日不明(春)：九十九島池より出水。死者30余名。	14) 54)
	1791年	地震	12月：小浜で山崩れによる死者2名。	14) 55)
	1792年5月	地震・岩屑なだれ	5月21日：眉山(当時前山)が大崩壊を起し、有明海に流れ込み津波発生。このため島原及び対岸の肥後・天草に被害、死者約15000名。「島原大変肥後迷惑」。	56)
	1991年～1993年	火砕流	1991年6月3日：火砕流災害(死者不明43名、建物179棟被害)。 1991年6月8日：火砕流災害(建物207棟)。 1991年9月15日：火砕流災害(建物218棟)。 1992年8月8日：火砕流災害(建物17棟)。 1993年6月23日～24日：火砕流災害(死者1、建物187棟)。	57) 57) 57) 57) 57)
	1991年～1993年	土石流	土石流災害(建物1692棟)。	57)
霧島山	1637年～1638年	噴火	1637年11月1日：寺院宝物焼失。	58)
	1716年11月	噴火	11月9日：(新燃岳)火砕流が発生。死者5名、負傷者31名、神社・仏閣焼失、焼失家屋600余棟、山林・田畑・牛馬に被害。	14)
	1895年10月	噴火	10月16日：(御鉢)山ノ根で噴石で家屋22軒出火。御鉢付近で噴火に遭遇する3人連れの男子及び老女1名が噴石で死亡。 3月15日：(御鉢)登山者1名死亡。負傷者1名。	59) 60)
	1896年3月	噴火		60)
	1900年2月	噴火	2月16日：(御鉢)爆発により重傷者5名、内2名は後に死亡。	60)
	1923年7月	噴火	7月11日：(御鉢)死者1名。	60) 61)
	1959年2月	噴火	2月17日：(新燃岳)爆発により警察無線中継所が被害。噴石、降灰多量。森林、耕地、農産物に被害大。	62)
	2011年1月～	噴火	2月1日：(新燃岳)爆発による空振により、軽傷者1名、噴石・空振により窓ガラス、自動車ガラス、太陽光パネル等が破損(945件)。	63)
桜島	1779年11月	噴火	11月8日：安永大噴火。噴石、溶岩を流出。死者150余名。	14)
	1781年4月	噴火	高免沖の島で噴火、津波により死者8名、行方不明者7名、負傷者1名。船舶6隻損失。	14)
	1914年1月	噴火・地震	1月12日：大正大噴火。地震、噴火により村落埋没、全壊家屋121棟、全焼家屋2148棟、死者・行方不明者58～59名、負傷者112～115名、農作物大被害等。	64)
	1946年5月	噴火	5月21日：溶岩流出。山林焼失、農作物に大被害、死者1名。	65)
	1955年10月	噴火	10月13日：爆発で死者1名、負傷者7名、降灰多量で農作物に被害。 10月15日：爆発で負傷者2名。	66) 66)
	以後、1994年頃まで爆発多数。ガラス、屋根、自動車、航空機の被害多数。降灰による農林被害が継続したが、そのうちの人的被害のあったものは以下の通りである。			
		噴火	1964年2月3日：爆発により登山者8名重軽傷。	67)
		噴火	1973年6月1日：爆発による火山礫により負傷者1名、車ガラス破損。	68)
		土石流	1974年6月17日：死者：2名、行方不明：1名。	69)
		土石流	1974年8月9日：野尻川上流で死者：5名。	70)
		噴火	1986年11月23日：噴石が古里町のホテルに落下、重軽傷6名。近くの飼料乾燥室全焼。	71)
口永良部島	1841年8月	噴火	8月1日：村落焼亡、死者多数。	65)

1931年4月	噴火	4月2日：爆発(新岳の西側山腹)。土砂崩壊、負傷者2名、山林田畑被害。	65)	
1933年～1934年	噴火	12月24日～1月11日：七釜集落全焼、死者8名、負傷者26名、家屋全焼15棟、牛馬や山林耕地に大被害。	65)	
1966年11月	噴火	11月22日：爆発、噴石、負傷者3名、牛被害1頭。	72)	
硫黄島	1664年	噴火	月日不明：地震、死者あり。	14)

噴火活動等顕著な火山活動である場合はその期間を、それ以外は災害が発生した年月を記載した。

<参考文献>

- 1) 平林順一(2003) 火山ガスと防災, Journal Mass Spectrom. Soc. Japan, 51, 119-124.
- 2) 北海道防災会議(1971) 十勝岳-火山地質・噴火史・活動の現況及び防災対策-, 136pp.
- 3) 北海道防災会議(1973) 有珠山-火山地質・噴火史・活動の現況及び防災対策-, 254pp.
- 4) 内閣府(2003) 有珠山噴火災害教訓情報分析・活用調査.
- 5) 曾谷龍典・勝井義雄・新井田清信・堺幾久子・東宮昭彦(2007) 有珠山火山地質図(第2版), 独立行政法人産業技術総合研究所地質調査センター, 8pp.
- 6) 気象庁(1980) 有珠山噴火活動調査報告(1977年8月～1978年12月), 気象庁技術報告, 99, 203pp.
- 7) 北海道防災会議(2002) 有珠山(補遺その1)-平成12年有珠山噴火(噴火活動と火山地質)-, 59pp.
- 8) 北海道防災会議(1975) 駒ヶ岳-火山地質・噴火史・活動の現況及び防災対策-, 194pp.
- 9) 北海道防災会議(1983) 恵山-火山地質・噴火史・活動の現況及び防災対策-, 99pp.
- 10) 北海道防災会議(1977) 渡島大島-火山地質・噴火史・活動の現況及び防災対策-, 82pp.
- 11) 気象庁(1997) 平成9年12月 地震・火山月報(防災編), pp44.
- 12) 植木貞人(1981) 鳥海山の活動史, 自然災害特別研究班成果No.A-56-1, 33-37.
- 13) 山形地方気象台・山形県農林水産部(2006) 山形県災害異年表(増補第9班), 2006.
- 14) 大森房吉(1918) 日本噴火志, 上編, 震災予防調査会報告, 86.
- 15) 仙台管区気象台(1963) 宮城県気象災異年表.
- 16) 福島地方気象台(1995) 福島県の気候百年誌, 平成7年3月.
- 17) 気象庁(1997) 気象要覧, 1177, 48.
- 18) 中央防災会議(2005) 災害教訓の継承に関する専門調査会, 1888磐梯山噴火報告書, 184pp.
- 19) 気象庁観測部地震課火山係(1959) 日本噴火誌.
- 20) 須藤 茂(1998) わが国の火山ガスの実態及び火山ガス事故の状況調査報告, 地質調査所研究資料集, 328, 197 - 208.
- 21) 気象庁(1976) 気象要覧, 924, 41-42.
- 22) 宮崎 務(2003) 浅間山火山活動記録の再調査, 東京大学地震研究所彙報, 78, 283 - 463.
- 23) 早川由紀夫・中島秀子(1998) 資料に書かれた浅間山の噴火と災害, 火山, 43, 213 - 221.
- 24) 軽井沢測候所編(1959) 浅間山爆発史集, (685-1955年), 372.
- 25) 中央気象台(1938) 気象要覧, 467, 862-870.
- 26) 中央気象台(1941) 気象要覧, 503, 1169-1171.
- 27) 中央気象台(1947) 気象要覧, 576, 45-47.
- 28) 軽井沢測候所(1952) 1950年9月23日浅間山爆発調査報告, 験震時報, 16, 75-82.
- 29) 中央気象台(1950) 気象要覧, 613, 45-47.
- 30) 気象庁(1961) 気象要覧, 744, 81-83.
- 31) 群馬県(2012) 群馬県地域防災計画, 風水害・雪害対策編, 15pp.
- 32) 気象庁(1974) 気象要覧, 899, 42-44.
- 33) Yamada, T.(1963) Report of the 1962 activity of Yakedake Volcano, central Japan, Jour. Fac. Liberal Arts and Sci., Shinshu Univ., 12, 47 - 68.
- 34) 三宅康幸・小坂丈予(1998) 長野県安曇村中ノ湯における1995年2月11日の水蒸気爆発, 火山, 43, 113 - 121.
- 35) 気象庁(1995) 気象要覧, 1146, 36.
- 36) 中央防災会議(2006) 災害教訓の継承に関する専門調査会, 1707富士山宝永噴火報告書, 190pp.
- 37) 一色直記(1984) 大島火山の歴史時代における活動記録, 地質調査所月報, 35, 10, 477 - 499.
- 38) 気象庁(1957) 気象要覧, 698, 71.
- 39) 宮崎務(1984) 歴史時代における三宅島噴火の特徴, 火山, 29, S1 - S15.
- 40) 気象庁(1962) 気象要覧, 756, 67-68.
- 41) 気象庁(1983) 気象要覧, 1010, 39-40.
- 42) 諏訪彰(1953) 明神礁の海底噴火について, 地学雑誌, 62, 1-11.
- 43) 猪間収三郎(1902) 鳥島破裂実検記, 地学雑誌, 14, 630-640.
- 44) 須藤靖明(2007) 阿蘇に学ぶ, 権歌書房, 1-319.
- 45) 熊本測候所(1931) 阿蘇山噴火史要, 17pp.
- 46) 福岡管区気象台(1976) 福岡管区気象台要報, pp31.
- 47) 中央気象台(1940) 気象要覧, 488, 401.
- 48) 阿蘇山測候所(1953) 昭和28年4月27日阿蘇火山活動状況報告, 1-16.
- 49) 気象庁(1958) 気象要覧, 706, 77-85.
- 50) 気象庁(1965) 気象要覧, 794, 34.
- 51) 気象庁(1979) 気象要覧, 961, 56-57.
- 52) 気象庁(1997) 気象要覧, 1179, 39.
- 53) 環境省(2001) 平成13年度管理方針検討調査, 阿蘇山上火山ガス安全対策堅調調査報告書, 60.
- 54) 太田一也(1984) 雲仙火山, 地形・地質と火山現象, 国立公園「雲仙」指定50周年記念. 長崎県, 98p.
- 55) 宇佐美龍夫(1996) 新編日本被害地震総覧 - 増補改訂版 -, 東大出版会, 493.
- 56) 渡辺偉夫(1998) 日本被害津波総覧(第2版), 東京大学出版会, 86.
- 57) 鳥原市(2002) 平成鳥原大変, 203-205.
- 58) 安山松巖(1974) 年代実録(全), 都城図書館, 76p.
- 59) 官報第3692号(明治28年10月18日).
- 60) 筒井・他(2005) 霧島・御鉢火山における2003年12月以降の噴気活動と明治～大正時代の火山活動, 火山, 50, 475-489.
- 61) 中央気象台(1923) 気象要覧, 284, 204-205.
- 62) 福岡管区気象台・鹿児島地方気象台・宮崎地方気象台(1959) 昭和34年2月17日の霧島山新燃岳の爆発, 1-16.
- 63) 消防庁(2011) 霧島山(新燃岳)の火山活動にかかる対応状況等(第40報)平成23年6月21日(火)10時00分.
- 64) 中央防災会議(2006) 災害教訓の継承に関する専門調査会, 1914 桜島噴火報告書, 169pp.
- 65) 鹿児島県(1967) 鹿児島県災異志(昭和42年3月).
- 66) 気象庁(1955) 気象要覧, 674, 71-73.
- 67) 気象庁(1964) 気象要覧, 774, 38.
- 68) 気象庁(1973) 気象要覧, 886, 34.
- 69) 気象庁(1974) 気象要覧, 898, 38-41.
- 70) 気象庁(1974) 気象要覧, 900, 46-49.
- 71) 気象庁(1986) 気象要覧, 1047, 43-44.
- 72) 気象庁(1966) 気象要覧, 807, 36.